

## アプリケーションに関する提案集

アプリケーション名	分野	概要	提案委員	備考
児童の通学路防犯カメラシステム	(公共) 安心・安全	<p>小学校、保育所の通学路にWebカメラを設置し、インターネットを通して、ライブ映像で通学時の子供たちの安全を確認することができるようにする。</p> <p>最近、小松市内においても、児童に声をかける不審者の出没が見受けられる。そこで、人家が少なく子供たちの登下校時不安となる場所をサポートするため、通学路の要所にWebカメラを設置し、職員室等のパソコンから通学時の児童や生徒を見守り、また犯罪抑止につながる防犯カメラシステムを導入する。</p>	荒川委員 (小松市)	
農作物管理映像システム	産業	<p>田畑の近くにWebカメラを設置し、インターネットを通して、ズームアップ映像で稲や野菜等作物の生育状況や田の水管理を確認することができるようにする。</p> <p>また、農協等の営農指導員に作物の生育状況を映像で見てもらい、指導が受けられるようにする。(春～秋の季節の方がよい)</p>		
一人暮らし老人安否確認システム	(公共) 安心・安全	<p>一人暮らし老人宅に緊急自動電話通報装置とWebカメラを設置し、いざという時に安否を確認できるようにする。</p> <p>老人が体調不良を感じても自分で電話をして助けを呼ぶことができないときに、ワイヤレス式非常押しボタンを押すことにより無線電波を受信し、あらかじめ登録された親族宅や民生委員宅に自動通報されるようにする。</p> <p>また、通方と同時にWebカメラが作動し、通報先においてインターネットを通してライブ映像で安否を確認することができるようにする。</p>		
森林の育成状況把握	環境	<p>Webカメラを用いた、監視システムを構築し、森林の育成状況を把握するとともに、環境センサーによるCO<sub>2</sub>などの濃度測定を行い、環境状況を把握する。</p> <p>また、コケなどの植物を観測することにも応用が可能である。</p>	金平委員 (石川県産業創出支援機構)	
動物の生態観測	環境	<p>Webカメラを用いて、自然動物(サル、クマなど)の生態を観測することにより、事前に里山へ降りてくるか否かを把握する。</p>		
郵便物集配の効率化	生活	<p>インターネット+メッシュネットワークにより郵便ポストへの投函有無を事前に把握することにより、車(バイク)から降りて、確認する手間を省くことより効率化を図る。</p>		

遭難者対策	生活？	ワイヤレスネットワークとRFIDにより、山菜取りなどで事故や迷子になった場合、の位置情報確認システムを構築する。GPS利用より安価に構築することが必要ではあるが・・・ なお、本システムは冬山登山にも利用可能である。	金平委員 (石川県産業創出支援機構)	
ローカル限定情報提供システム	(公共)	観光、出張などで訪れる旅行者を対象に地域を限定したタイムリーなイベント情報などを提供するシステムの構築を図る。 情報提供者は情報提供のための書式をわざわざ作成することなく、各情報提供主体が自らのフォーマットで自らのホームページに掲載しているものをそのままピックアップして提供することが可能なインテリジェントな機能により情報提供を行う。 旅行者は、インターネットアクセス機能を組み込んだカーナビや携帯端末上から、地域限定情報として有用なイベント情報や周辺観光情報を得る。	向井委員(富山県)	詳細は別紙
P T T ( Push-to-Talk ) 利用可能な I P 告知システム	(公共)	各戸に P T T 機能を搭載した I P 告知端末を設置し、行政からの告知用に利用するほか、各戸からボタン一つで簡易に告知放送を流せるようにする。 各戸からの告知は、集落単位等の小規模グループを対象に利用可能とする。 (想定される利用方法) ・ 日常時の情報交換 ・ 緊急時における近隣世帯への告知( 独居高齢者の救急要請を近隣世帯に行なうことで救急車到着を待たずに搬送する、不審者・危険動物の出没情報の周知等)	渡辺委員(石川県)	
地域情報番組の VOD 配信システム	(公共) 地域コミュニティの形成	地域における情報格差の軽減と C A T V における映像資産の活用化を図る。( ケーブルテレビではエリア外における地域情報番組の視聴は不可能だが、インターネットで地域情報番組を配信出来れば、地域における情報格差の軽減が図れる。	縄委員 (日本ケーブルテレビ連盟)	

子供の動態把握システム	(公共) 安全の確保	小学生の名札等に電子タグ等を付加し、各所(校門、公園、通学路の一部電柱等)に設置した読み取り装置近傍を通過したことを検出。 検出した情報を無線アクセスシステムを含むインターネット網で収集して電子メールで親に通知する等の機能を提供する。	事務局	図 1
遠隔地の親族による一人暮らしのお年寄りの見守り利用	(私的) 生活	一人暮らしのお年寄りと、遠隔地で暮らす家族との間で、常時接続の映像伝送を行う。 常時接続により双方の居間等の常時定点伝送を行うことで、お年寄りにとっても操作が不要で擬似的な同居状況を醸成することができる。	事務局	図 2
防災用可搬型映像中継システム	公共的アプリケーション・安全の確保	豪雨警報、雪崩警報の発出された時期等に、崩落可能性のある場所や増水河川の近傍に仮設する低価格の画像中継システムとしての利用。 無人中継装置として市役所等で行う現場監視のほか、必要に応じてインターネットで住民が観察できるような運用も考えられる。	事務局	図 3

## [ タイトル ]

ローカル限定情報提供システム (分野：公共的アプリケーション)

## [ 概要 ]

## 1 必要性、ニーズ

ある一定地域内の情報だけを求めるニーズには、地域内の生活者のニーズがあるが、これについては、一部で取り組みが進められている。しかし、これとは別に、観光、出張その他に伴う旅行者のニーズがある。

この については、旅行者が目的とする観光施設や出張先のほかに、その旅行の空き時間を利用して、別の体験をしたいというニーズもあると考えられる。そうしたニーズを持った旅行者は、目的とする施設等から一定時間内にアクセスできる特定の地域内で、ある旅行日のある時間帯の中で体験が可能なものを探す必要がある。

こうした情報は、現在でも、紙媒体やホームページで提供されていることが多い。しかし、旅行者は、こうしたものの中から自分の関心にフィットしたものを探すことは実際には困難であり、妥協せざるを得ないのが現状である。冊子などのガイドブックでは、掲載できる情報には限りがあるし、一時的なイベントなどは一定規模以上のものでないと掲載されないのが普通である。ホームページの場合は、検索によって探し出すには手間がかかりすぎるが多い。

こうしたニーズに応えるために、現在でも、情報提供者が一定の書式で登録するという仕組みを作り、ホームページ上でそうした地域の情報を一元的に提供するというような取り組みが行われている。しかし、登録のコスト自体はそれほど高くないとしても、実際に目に見える効果に比べると作業コスト等が相対的に高いため、登録者は、余裕のある提供主体に限られるだけでなく、やはり効果が必ずしも見えないことから、徐々に登録件数の減少が始まり、それがさらに利用者を減少させることで、それがさらに登録を減少させいくといった形で縮小していくのが通常のパターンであり、継続性に欠けるのが現状である。

そこで、各情報提供主体が自らのフォーマットで自らのホームページに掲載しているものをピックアップして提供するインテリジェントな検索システムが可能であれば、情報提供者の新たな負担感なく可能になる。こうしたものができれば、旅行者は、自らの日程にあった多数の情報の中から自らの好みで自由に選択することが可能になり、PRに費用をかけられないような地域の自治会や団体などが行うような小規模なイベントであっても、ホームページ上で告知さえしてあれば、外来の旅行者の目にとまる可能性が高まり、外来の観光客がそうしたイベント等に参加するというようなことも実現の可能性もある。そうなれば、これは、地域の活性化にも寄与することになると考えられる。

こうしたインテリジェントな検索システムを無線アクセスシステムで提供すれば、外来の旅行者は、インターネットアクセス機能を組み込んだカーナビや携帯端末上から（携帯電話は、無線アクセスシステムではなく、携帯電話のルートを通じて、アクセスすることになると思われるが）このシステムにアクセスし、希望する地理的条件、例えば、現在地から3km以内の地区で、例えば午後3時から5時の間に利用できるものという条件を入力して、その地域内でその時間帯に開催されているイベントや施設の情報を、即時に（例えば急な日程の変更にも対応できるように）取得できるようになる。

こうした無線アクセスシステムによる地域情報の提供は、以上のインテリジェントな検索システムとは別に、ある地域内の（地域限定の）詳細な観光情報の提供と組み合わせれば、さらに価値が向上する。

もちろん、こうしたインテリジェントな検索システムは、旅行者ではない、その地域の居住者にとっての のニーズにも応えられる価値のあるものになると考えられる。

## 2 開発されるべき技術

なお、具体的な技術に関連して、ページの取得は google の利用が可能である（当初は、当該地域に係わるいくつかの限定されたホームページを対象に始めればよいだろう）。これで得られた多数のページの中から、地域限定情報として有用なイベント情報（場所、日時、内容）や施設情報（場所、開館時間、休館日、催物内容、イベント期間など）、観光地・景観情報（場所）などを切り出すインテリジェントな技術が必要である（例えば、日時や住所などのフォーマットは多様である。また日時が実際にイベントの時間を表しているのか、例えば単にその情報を掲示した文書の作成日時にすぎないかの評価も必要である。）。その上で、それをカテゴリー別に分類して表示する。また、地図との連携が必要になる。

もちろん、こうしたインテリジェントな技術が必要な部分は、書式を指定したりXMLで書いてもらえば容易になるのである（それは従来型である）が、それでは、情報提供者側の努力が長続きせず、継続性がなくなることになる。

参考；「広域連携におけるインターネットと連携検索エンジン」雑誌『でるくい』2号（平成9年2月）

<http://www.pref.toyama.jp/branches/1133/derukui/vol199702/07.html>

[ イメージ図 ]

(略)

# 小電力データ通信システムを用いた子供の動態把握システム

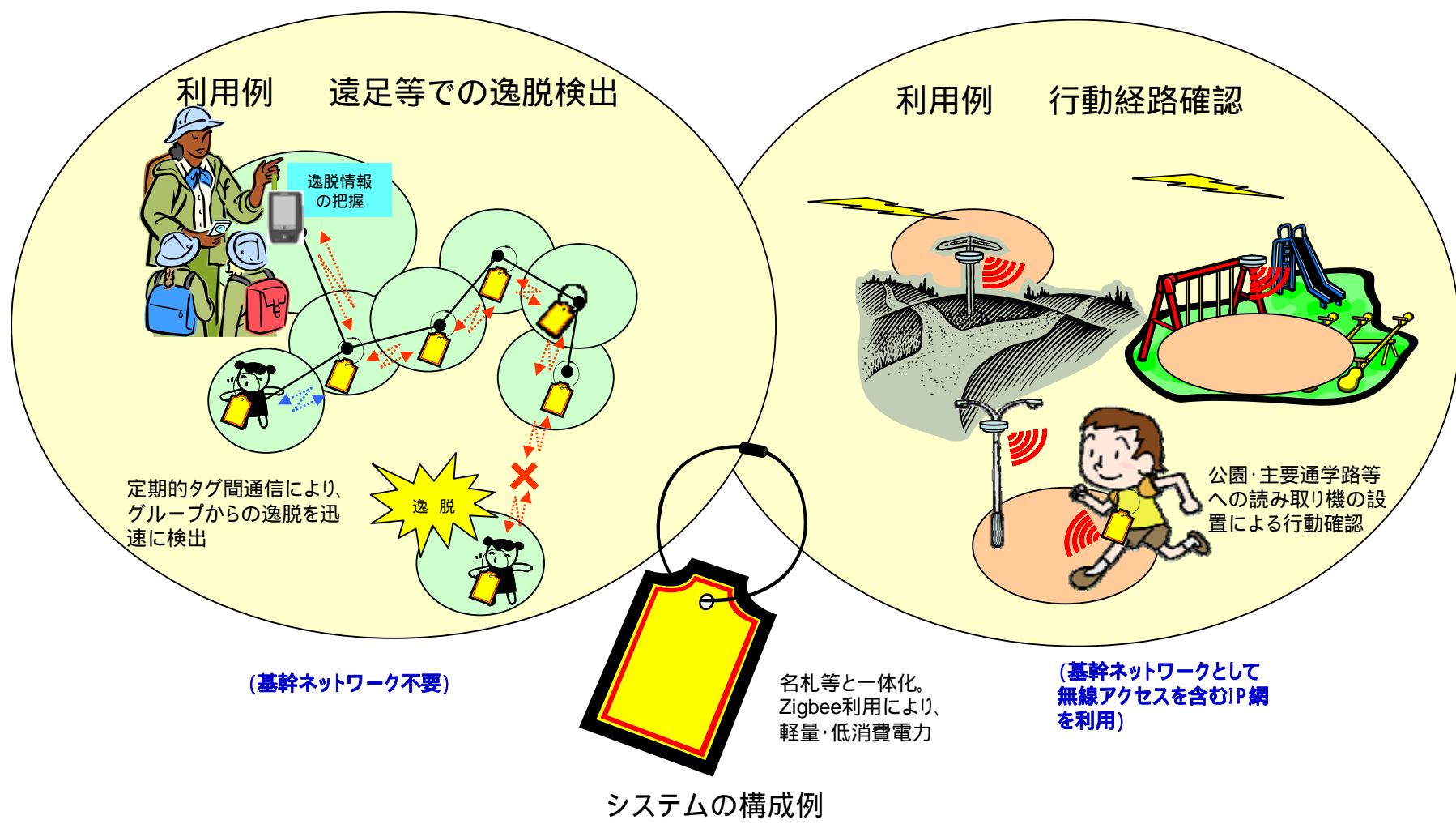


図2

### 遠隔地の親族による一人暮らしのお年寄りの見守り利用

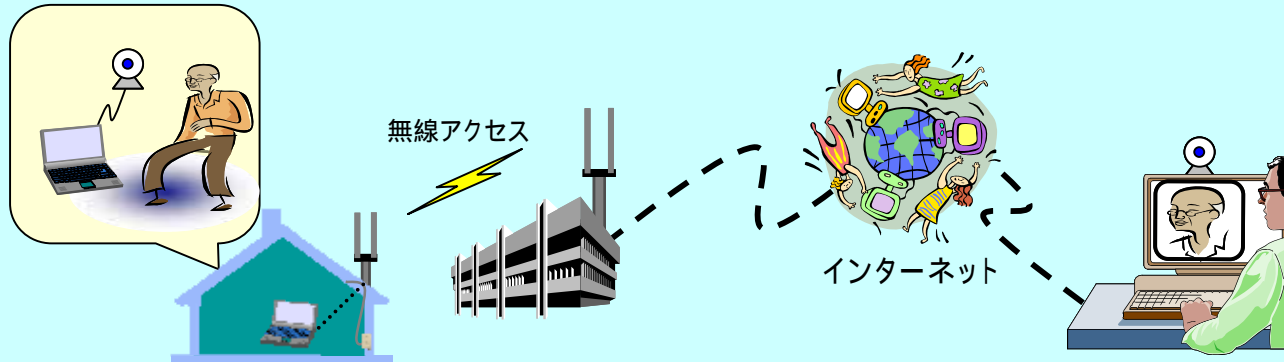


図3

### 防災用可搬型映像中継システム

